

公表 事業所における自己評価結果

事業所名		Kidsハミング放課後等デイサービス				公表日	2026 年 5 月 28 日	
	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点			
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	6					
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	4	2		日々の手厚い療育体制や安全管理、また今後の児童指導員の導入を見極え、現場職員がより適切な人員体制を求めている結果だと認識しています。引き続き求人確保等の活用や、多様な専門性を持つ人材の確保に注力し、よりゆとりある安心安全な体制づくりに努めます。		
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	6					
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	6					
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	6					
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画しているか。	5	1		日々の支援記録や振り返りは実施していますが、個別支援計画の評価から次の目標設定への進捗（PDCAサイクル）について、全職員が共通認識を持ってさらに円滑に行えるよう、ケース余の持ち方や記録フォーマットの工夫・見直しを図り、支援の質を向上させます。		
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	5	1		年1回の評価表に留まらず、毎日の連絡帳や送迎時の対話を通じて、日常的にお子様や保護者様のリアルな意向・ご要望をきめ細かくヒアリングしています。職員会議での共有を経て、サービスの質向上や業務改善へスピード感を持って取り組んでいます。		
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	6					
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	5	1		毎日の送迎時の対話や連絡帳を通して「日常的なヒアリング」で完全にカバーし、即座に職員会議での検討を経てサービス向上へと繋がっています。今後は、計画作成時の全職員への周知・共有プロセスを義務化し、職員全員が支援計画の内容を確認・理解した上で、一貫した質の高い支援を提供できる体制を徹底いたします。		
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	6					
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	6					
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成しているか。	5	1		管理者として、日々の観察や送迎時・お電話での保護者様との対話から、学校や家庭での課題を客観的に分析し、個別支援計画へ反映させております。今後は、計画作成時の全職員への周知・共有プロセスを義務化し、職員全員が支援計画の内容を確認・理解した上で、一貫した質の高い支援を提供できる体制を徹底いたします。		
	13	児童発達支援計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	6					
	14	児童発達支援計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	6					
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	5	1		ご利用者の日々の様子や集団活動における様子を記録する「行動観察（インフォーマルなアセスメント）」に加え、保護者様への聞き取り等の結果（フォーマルなアセスメント）を基に、こどもの適応行動の状況を把握しております。これにより、職員の主観に頼ることなく、客観的な根拠に基づいたご利用者個別の課題や強みを分析し、適切なアプローチを組み込んだ個別支援計画の策定を徹底しております。		
	16	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	6					
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	6					
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	6					

	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせることで児童発達支援計画を作成し、支援が行われているか。	6			
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6			
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	5	1	当事業所では、支援終了後の「終礼」において、全職員で当日のご利用者の様子や特記事項、問題発生の有無を必ず確認・共有しております。また、日中の業務内における軽やかな報告・連絡・相談を徹底するとともに、送迎終了後にも職員が集まり、運行上の異常の有無や「本日の危険だったこと」の振り返り、気付きの共有を日々実施しております。	
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	6			
	23	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	5	1	ヒアリング方法：面談、電話に加え、日々の送迎時の対話を密に行い、お子様の様子や保護者様のニーズをリアルタイムに把握しています。計画書の交付・回収：連絡帳アプリ（デイルボ）を用いてオンライン上で迅速に確認・電子署名（認証）をいただいております。なお、希望される保護者様には書面での交付も行い、確実な情報共有に努めています。	
関係機関や保護者との連携	24	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6			
	25	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	6			
	26	併行利用や移行に向けた支援を行うなど、インクルージョン推進の観点から支援を行っているか。また、その際、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	27	就学時の移行の際には、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っているか。	6			
	28	(28～30は、センターのみ回答) 地域の他の児童発達支援センターや障害児通所支援事業所等と連携を図り、地域全体の質の向上に資する取組等を行っているか。				
	29	質の向上を図るため、積極的に専門家や専門機関等から助言を受けたり、職員を外部研修に参加させているか。				
	30	(自立支援)協議会こども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加しているか。				
	31	(31は、事業所のみ回答) 地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要に応じてスーパーバイズや助言等を受ける機会を設けているか。		○		
	32	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、地域の中で他のこどもと活動する機会があるか。	5	1	地域ネットワーク会議などの参加で交流はありますが、地域の子供たちと活動する機会がありませんので今後検討させていただきます	
	33	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達状況や課題について共通理解を持っているか。	5	1	定期的なモニタリングの際には、これまでの支援の成果と変化や面談や電話を通じて丁寧に説明し、保護者様の意向をヒアリングしています。また、送迎時の対話や日常のやり取りの中で、急なニーズや状況の変化を察知した際には、定期モニタリングの時期を待たず、速やかにアセスメントを再実施し、個別支援計画の見直し（プランニング）の必要性を児童発達支援管理責任者を中心に判断・対応しています	
	34	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	5	1		今後機会を作れるように検討させていただきます
	35	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6			
	36	児童発達支援計画を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6			
	37	「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ているか。	6			
	38	定期的に、家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6			

保護者への説明等	39	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	4	2		当事業所では、これまでお子様一人ひとりが主役となる日々の活動やイベントの充実に注力してまいりました。今後はこれに加え、お子様を支えるご家族様（お父様・お母様）への支援も大切な役割と位置づけ、少しずつ新しい取り組みを増やしていく計画です。
	40	子どもや保護者からの相談や申し入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申し入れがあった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	6			
	41	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6			
	42	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6			
	43	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
	44	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	5	1	現状、当該課後等サービス事業での行事に地域住民の方々を直接招待するような独自のイベントは実施に至っておりません。しかしながら、運営法人（有限会社松本製作所）全体としては、地域住民の皆様をお招きした「音楽活動」の開催や、地域の関係機関・専門職を交えた「ケース会議」を定期的に実施するなど、地域社会とのネットワーク構築に努めております。	
非常時等の対応	45	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	5	1	運営規程に基づき、各種安全管理マニュアル（事故防止・緊急時対応・防犯・感染症）およびBCP（業務継続計画）を策定・運用しております。今後は、虐待防止および性的虐待防止マニュアルについても速やかに策定し、発生を想定した訓練の実施とともに、職員および保護者様への周知徹底を図ってまいります。	
	46	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6			
	47	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6			
	48	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6			
	49	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	6			
	50	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	5	1	児童の安全確保のため、災害時や緊急時に迅速に連絡が取れる体制を整えています。ご利用者のメールアドレスおよび緊急連絡先を掲載した「緊急連絡ファイル」を作成し、全職員がいつでも即座に対応できるよう事業所内で共有・管理しております。保護者様への定期的なメール配信や書面周知を徹底し、さらなる連携強化を図ってまいります。	
	51	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6			
	52	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6			
53	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し理解を得た上で、児童発達支援計画に記載しているか。	6				